

東  
北  
大

# きょうかん

発行  
東北大学教育学部  
関東地区同窓会

事務局  
〒187-0022  
東京都小平市  
上水本町 6-5-1-304  
(小林 昭文方)

電話・FAX 042-325-2819  
aug021zelkoba7@ezweb.ne.jp

題字：江川 亮

この「きょうかん」がお手元に届く頃は秋も深まる好季節のことでしょう。会員の皆様にはお変わりなくご健勝でお過ごしのことと思います。この夏、日本では猛暑に加えて異常豪雨が各地に大被害をもたらして、海外では大旱魃や異常高温地域の発生等、地球の環境メカニズムの狂いが深刻化しているのではと危惧しています。また、国際社会では相変わらず紛争が絶えず、国内にあつては異常な事件の頻発等、心の痛む状況が続いており、「何とかならないか」と思う毎日です。高齢化社会が急速に進む日本、次世代に余分な負債を残さぬよう自立心の涵養が必要だと思います。たとえ小さな力でも、一人ひとりが情性に流されることなく、「日々是新」と「感謝」の心で日々の生活に立ち向かいたいものです。

母校の現況ですが、堀籠副会長の関東秋友会報告にあるように、里見総長肝いりの「ワールドクラスへの飛躍」を目指した取組が着実に歩を進めているとのこと、同慶の至りです。また、わが教育学部でも本郷学部長のご挨拶文にあるように、国際化に向けた意欲的な挑戦がなされる

ご挨拶  
「日々是新」と「感謝」の心で



東北大学教育学部関東地区同窓会会長  
星 永揚 (教育社会 66年卒)

いる由、これまた力強い限りです。さて、我が関東地区同窓会ですが、今年は二年に一度の総会開催年度に当たり、現在、役員一同準備に取り組んでいるところです。一点大事な変更点があります。今回から開催日時を、従来の「金曜日・夕方」から「日曜日・午後開催」に変更しました。遠距離・ご高齢の会員からの要望への対応が理由です。詳しくは二ページのご案内をご覧ください。記念講演は、上埜高志副学部長（本郷学部長は学会出席で都合つかず）にお願いし、「教育学部の現状と課題（ワールドクラスを目指して）」についてお話しいただく予定です。懇親会では、新たな試みとして田沢幹事のお骨折りで東北大学ブルーグラスの有志に三曲程演奏してもらおうことになりました。お楽しみに。

東日本大震災からはや三年八ヶ月、未だ復興の進まぬ被災地への支援の思いを新たに、久しぶりに旧友・同窓との交流と絆を強めていただく機会にしていただければ幸いです。

お知合いの会員の方にもお声掛けいただき、一人でも多くご参加下さるようお願いいたします。

## 第13回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会のご案内

第13回総会・懇親会を下記のとおり開催いたします。懐かしい青春時代を共に「杜の都・仙台」で過ごされた同窓生の皆様が旧交を温め、交流を拓けるチャンスにしたいと思っております。今回から皆様の集まりやすい日曜開催に変更いたしました。ご多用のことは存じますが、是非ともご出席いただきたくご案内申し上げます。

なお、出欠のご返事は、遅くとも10月30日（木）までに事務局あてお寄せ下さい。

東北大学教育学部関東地区同窓会会長 星 永揚

記

●開催日 平成26年11月9日(日) 13時より

●会場 麗澤大学東京研究センター

(詳細は2ページをご覧ください)

ご挨拶

## 「国際化への新たな挑戦」



東北大学教育学部同窓会会長  
教育学研究科長  
本郷 一夫  
(教育心理 '76年卒)

東北大学は、現在、スーパーグローバル大学創成支援プログラムに応募しています。このプログラムは、日本の大学の国際競争力の向上を目的に、世界大学ランキングトップ100を目指す大学(タイプA、一〇件程度)や国際化を牽引するグローバル大学(タイプB、二〇件程度)に対して支援を行うことを目的としています。東北大学が目指すタイプAに採択された場合、毎年四億二千万円、最大一〇年間の支援が期待されます。これにより、さらなる国際化に向けた動きが加速することになります。

教育学研究科・教育学部においても、国際化に向けた新たな挑戦が始まっています。二〇一七年までに達成する目標として、以下の項目を設定しています。(一)学部生の海外留学数の増加、(二)大学院生の国際学会での発表の増加、(三)教員による国際共同研究の推進、(四)外国人教員の採用、(五)英文ジャーナルの発行などを掲げています。そして、既に今年の春にはプロジェクトの助教として外国人教員を採用し、

秋には英文ジャーナルを発刊する計画などが進められています。

大学院生の国際化については、「アジア共同学位開発プロジェクト」の一環として今年から始まった「アジア教育リーダーコース」(「E」コース)を開設しました。このコースは、東アジアの各大学を大学院生が移動しながら学ぶことによって、東アジアの文化に精通した教育リーダーを育成しようとするものです。今年の夏には、東北大学において十一日間のプログラムが実施され、東アジアの各国から計十八名(東北大学から六名)の学生が参加しました。今後、国立政治大学(台湾、二〇一五年夏)、南京師範大学(中国、二〇一五年夏)、高麗大学(韓国、二〇一六年冬)と学生が移動しながら学ぶ予定です。学部においては、昨年秋季に募集した「教育学部支倉学生交流委員(HISE)」が活躍をしています。三月には国立台湾師範大学及び国立政治大学を訪問し、教育学部についての広報活動や学生交流を行いました。また、四月には新入生に対するオリエンテーションや学部生に対する留

## 第13回 東北大学教育学部関東地区同窓会総会・懇親会

- ①日 時 平成26年11月9日(日)13時より(12時30分受付開始)～17時  
 ②会 場 麗澤大学東京研究センター  
 ③総 会 13時  
 ④講 演 13時30分 ★講師 上埜 高志氏  
 (東北大学大学院教育学研究科・教育学部教授、副学部長)  
 ★演題「教育学部の現状と課題—ワールドクラスの大学を目指して」  
 ⑤懇 親 会 14時30分 「三国一」：(麗澤大学東京研究センター同ビル地下)  
 ⑥会 費 5,000円(当日受付にてお支払いください)  
 ⑦申 込 10月30日(木)までに、同封の返信用ハガキで出欠をお知らせください。  
 ⑧問 合 せ 同窓会事務局 小林 昭文 TEL・FAX 042-325-2819

## インフォメーション

## ☆講師：上埜 高志氏のプロフィール

1954年宮城県生まれ。1980年弘前大学医学部卒業。東北大学医学部附属病院神経科精神科、国立精神・神経センター武蔵病院(東京都小平市)、財宮城県精神障害者救済会国見台病院(仙台市青葉区)を経て、1993年東北大学教育学部視覚障害学講座・助教授。2002年東北大学大学院教育学研究科人間発達臨床科学講座・教授。2012年4月より国立大学法人・東北大学大学院教育学研究科・副研究科長。専攻は臨床心理学、精神医学。

## ☆会場：麗澤大学東京研究センター

麗澤大学東京研究センターは、新宿副都心の新宿アイランドタワー4階にあります。

所在地：東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー4階

電話：03-5323-6196

アクセス：JR 新宿駅西口より徒歩8分。東京メトロ丸の内線西新宿駅下車すぐ上。

地図は大学のHP <http://www.reitaku-u.ac.jp/> 交通案内にあります。

学説明会の開催などを行い、学部  
の国際化に向けた取り組みに積極的  
に参加しています。

教育学研究科・教育学部のこのよ  
うな国際化に向けた取り組みに対し  
て、今後とも同窓会のご協力とご支  
援をよろしく願います。

(二〇一四年八月一日)

## 教育学部六〇年小史

東北大学教育学部は、昭和二四(一九  
年五月、宮城師範学校(青年師範を  
含む)を包摂し、義務教育の教員養成を  
も担う部局として創設された。以下、  
平成十一年度版「卒業生名簿」序章か  
らその歴史を抜粋要約し掲載する。

### 1. 前史(1922(大正11)～1949(昭和24)年)

大正十二(一九二三年、東北帝国大学法文  
学部)に教育学部の前身となる教育学講  
座が設置され、篠原助市教授が就任、  
昭和十(一九三五年)年に細谷恒夫助教が着任。  
この時期の教育学研究は篠原教授の  
「理論的教育学」に代表され、大正新  
教育運動に大きな影響を与えた。

### 2. 第一期(1949(昭和24)～1953(昭和28)年)

戦前の大日本帝国憲法・教育勅語に  
かわり、日本国憲法・教育基本法が制  
定され、主権者としての国民を育てる  
民主主義教育が戦後改革の理念となり、  
「大学で教員養成を行う」ことが原則  
とされた。東北大学の研究中心の在り

方と、宮城師範が担ってきた義務教育  
教員養成とは隔たりがあったが折衝を  
重ね、1949年5月、東北大学教育学部が  
宮城師範学校を併合し成立した。

### 3. 第二期(1953(昭和28)～1955(昭和30)年)

この時期、十講座体制であり、昭和  
三一年には片平丁に新研究室棟が完成  
し充実期を迎えた。こうした状況下、  
戦後改革の理念であった教員養成の開  
放性が見直され、一九五八年中央教育  
審議会答申で「目的養成」政策が打ち  
出され、教員養成課程の分離独立・宮  
城教育学部創設の道が選択された。

### 4. 第三期(1955(昭和30)～1993(平成5)年)

一九六五(昭和40)年からは、教育学  
科三専攻(教育哲学・教育史、教育社会  
学・社会教育学、教育行政学・学校管理・  
教育内容)と教育心理学科三専攻(教育  
心理学、聴覚言語欠陥学、視覚欠陥学)  
の二学科構成となった。一九七三(昭和  
48)年に付属大学教育開放センターを  
設置、同年教育学部を含む文系四学部  
が川内地区への移転となった。

### 5. 第四期(1993(平成5)年～現在)

一九九八(平成10)年四月より大講座  
制を採用。人間形成論、教育政策科学、  
成人継続教育論、教授学習科学、人間  
発達臨床科学の五大講座と大学教育開  
放センター。平成十八年に「教育ネッ  
トワークセンター」、同二十年に「教  
育設計評価専攻」を新設し現在に至る。

## 「自分の花を咲かせる」

東北大学教育学部同窓会仙台支部長  
渡邊 宣隆(学校教育 68年卒)

教育学部同窓会仙台支部の設立は  
昭和54年、当時の塚本哲人学部長か  
ら同窓会結成の話が故藤井黎仙台市  
教育長(後の仙台市長)にあったこ  
とから始まりました。藤井氏と第一  
回生の市内小中の先生方有志がまず  
は地元仙台市から支部組織の形態で  
結成しようということ支部が誕生、  
第一回設立総会が昭和55年11月多く  
の教員の参加を得て開催され、以来  
毎年11月に定期総会を開催されてま  
した。本年11月の定期総会で35回目にな  
ります。設立時から会員の中心が  
教員という背景もあり、教員養成分  
門が分離独立した影響をまともに受  
け、最近では会員数の減少化と構成会  
員の高齢化傾向が顕著になっていま  
す。若い教員と公務員や一般企業の  
会員の開拓が大きな課題です。

そんな中、定期総会において退官  
する・した先生方をお招きしご講演  
を頂いてまいりましたが、会員の中  
で自分の花を咲かせている方の話も  
いかがだろうかという提言があり、  
一昨年、会員の推薦された方のご講  
演を実施し好評でした。

人は皆、天からその人だけの真実  
を授かってこの世に生まれてきます。

その真実を発揮していくことこそ全  
ての人に課せられた使命です。自分  
の花を咲かせるとはこの真実。天  
真を発揮して生きることには他ならな  
いといえます。ただ、自分の花を咲  
かせる秘訣は心の奥深くに隠されて  
いるため気づかず人生を終える人  
も少なくないといわれます。

自分の花を咲かせることができる  
秘訣に気づく機会として研究に精励  
された大学の先生方や自分の生き方  
在り方を真摯に追求されてこられた  
会員の方々の講話等を企画し、総会  
懇親会を充実したものにしていきた  
いと考えているところです。

## 「東北大学 関東秋友会報告」

東北大学教育学部関東地区同窓会副会長  
堀籠 英夫(教育社会 61年卒)

恒例の関東秋友会(旧秋友会関東  
支部)総会が八月三日に東京丸の内  
サピアタワー内で開催されました。  
講演会は大盛況で関係者総勢四〇〇  
名が参加、講演会後の懇親会には各  
方面から一四〇名強が参加され和や  
かな雰囲気の下、旧交を温められた  
様子。

総会の冒頭、里見総長から総長就  
任時に発表された「里見ビジョン」  
の進捗状況について報告があり、着  
実に進行していることが印象付けられ  
ました。そのビジョンの中核をなす

のは「ワールドクラスへの飛躍」ですが、この項目に関してはこれからも多大の努力を要するのではないかと感じました。

国際的に世界の大学を総合的に評価している機関がありますが、その代表的機関に「EBC」があり、「EBC」の最新の評価では東北大学は世界ランク一五〇位です（大学当局発表ではありません。小職が「EBC」で調べたもの）。

日本では東大が二三位、京大が五二位でBEST一〇〇に入っているのはこの二校だけ（東工大一二五位、阪大一四四位、東北大一一五〇位、BEST二〇〇に入っているのは日本ではこの五校だけ）。BEST一〇に入ってから初めてワールドクラスの大学と言えるのではないかと思う次第。今度新しく、総長顧問としてマーティ・キーナート氏が就任し総会に出席されておられたので、BEST一〇〇にランクインするためには何が欠けているかと思うかを探してみました。キーナート顧問はスタンフォード大OB（スタンフォードは世界ランク四位）で日本では慶応を卒業し早稲田の教授も歴任、現在宮城大学の副学長を兼務。彼は、いろいろ努力すべき点があると思うが最も大きな要因は発表論文の問題（英

文での発表が相対的に少ないこと）と国際化の遅れではないかと申しておられました。

昨今、グローバル企業と言われる民間企業内の社内論文や研究レポートなどでも邦文と英文の併記が多くなっていることを考えると、大学の研究論文が邦文だけではやはりさびしいと言わざるを得ない。

### 記念講演会から

#### 1. 成長する地域と衰退する地域

講演者 福島 路氏

（東北大学大学院経済研究科教授）

#### 日本の人口問題

二〇四〇年には二〇〜三九歳の女性性が五〇%減少する消滅可能性都市の事例紹介があり、東北に多いことが具体例で示されました。地方から人口が流出する最大の理由は地方に仕事があるか無いかとのこと。住民が知恵を絞って職を創り出し地域の活性化を行う必要性を訴えられました（成功地域の具体例を挙げて）。物事の解決を他責とするのではなく、自らの力で切り開く精神と行動力の必要性を感じた次第。

#### 2. 東北大学から宇宙へ

講演者 吉田 和哉氏

（東北大学大学院工学研究科教授）

先生の偉業は新聞やTVで報道されましたのでその偉業の紹介は省き

ますが、ご講演の結びの言葉が印象的だったのでその部分だけを紹介させていただきます。

日本が科学技術立国であり続けるために

「閉塞感」と言う負のスパイラル

・失敗を咎める雰囲気

失敗を恐れ出来そうなことしか

やらない↓失敗経験の減少↓より

り大きな失敗

「夢への挑戦」と言う正のスパイラル

・挑戦には失敗」は付き物であるとの発想

小さな失敗を積み重ね「失敗」

から学べ↓リスクを直視し、見

通す能力の涵養↓「失敗」に負

けない力

関東萩友会総会は毎年八月から九月に開催されますので、皆様のご参加をお勧めしたいと思います。本年の教育学部からの参加者は六名でした。

## 同窓生の声

「教育現場に身を寄せて」

石森 ミネ子（学校教育「68年卒」）

戦後六十九年、終戦記念日から約

三か月後に生まれた私は、正に新たな

施策の中、教育の大きな転換期に

子どもとして過ごした。

しかし、田舎での生活はのんびり

としていた。田野を駆け巡る生活から一転したのが大学生活。私たちは「学校教育学」最後の卒業生だった。

卒業の頃、宮城県は新採受難の時代に入り、私はようやく僻地に採用された。高度経済成長の波が押し寄せ、教育は力強い歩みをしていた。

二校目九年で、私は宮城県を退職し、東京都の教員として江戸川区の小学校に勤務することになった。

「環境が人を育てる」という言葉が大人の私にも当てはまり、研究の意欲がかき立てられた時代だった。子ども・保護者・地域が教員に求める質の高い教育。そしてそれに応える同僚の方々。私も遅ればせながら、子どもの持つ能力を引き出し達成感を味わわせたい思いで、必死に研究に精を出し、指導力をつけるべく努力した時期だった。

それから管理職となって十七年。子どもたちと直接触れ合う時間は少なくなりましたが、目の前の子どもを育む大人（教員・保護者・地域）の皆さんと話し合ったり指導したりの間わり合いは、またうれしい出会いがあった。

退職が近づく頃から少しずつ、教育の在り方が変化していく兆しが、形になって表れていくようになってきた。その一つが業績評価制度であり、学

校選択制度等である。また、子ども  
の安全への配慮から放課後の学校活  
用の動きも活発になっていった。

退職後、都の教職員研修センター  
に勤務、都の区市全域へ出かけ、嬉  
しい出会いも多かった。

現在は団塊の世代が現役を退き、  
新たな動き（道徳の教科化の方向や  
教育委員会の在り方の見直し等）の  
中で学校現場は努力している。ぜひ  
健康で心豊かな子どもに。そして、  
時代の変化を見極める知識と判  
断力を持つ大人になってほしいと心  
から願う。

「卒業後の日米の子どもと教師」  
高橋 靖直（教育行政 66年卒）

これまで、日米の学校教育に関心  
を抱いてきた筆者は、両国の学校教  
育に多くの共通点を見出し出してきた。  
一方で、相違点にも興味を持って  
いる。その一つが、学校卒業後の教師  
と子どもとの関わり方の違いである。  
日本では子どもと教師の多くが学  
校で関わった関係が卒業後も続き、  
時には一生続くことも希ではない。  
その関係の具体例を三つ挙げてみよ  
う。

まず、結婚披露宴に「恩師」とし  
て教師が招かれることが日本では珍  
しくない。卒業後余り年数の経って  
いない大学教授だけでなく、幼稚園

や小中学校の教師も出席しているこ  
とが多い。但し、近年結婚式の在り  
方が変わり、この例は少なくなつて  
いるようだ。

次に、日本では学校の同級会、同  
期会、同窓会が盛んに開かれ、そこ  
には現職の教師、あるいは退職後の  
教師が招かれる。このような会は卒  
業生によって計画され、参加も招待  
も任意である。そして、このような  
集まりは厄年、還暦、古希まで続く。  
更に、より身近な例としては、卒  
業生と教師との年賀状の交換がある。  
年一度の年賀状を通じて何十年もの  
間学校時代の子どもと教師の関係が  
続く。先日、小学校一年の担任だっ  
た先生から、「九十歳になりました  
ので、来年から年賀状を休みます」  
との暑中見舞いをいただいた。

私の知る限り、前記のような例は  
米国には無いが、あっても極めて希  
である。子どもと教師の関係が生涯  
続く可能性を秘めて教育が行われ、  
その関係は卒業で終わらず、退職で  
も終わらない。日本のこの学校教育  
文化を大切にしたいと思う。

「福祉現場から大学へ」  
浦和大学 小熊 順子（教育心理 69年卒）

大学に在学中のことは記憶のかな  
たへという感があるが、それでも想  
い出されるのは、各研究者の理論の

紹介を黒板にチョークでびっしりと  
書かれそのノート取りに必死だった  
塚田先生の人格心理学、青年の性と  
結婚についてかなりの熱弁をふるわ  
れていた宮川先生の青年心理学、遠  
山啓の水道方式を切れ味抜群で説明  
されていた細田先生の学習心理学の  
授業です。

私が現職である大学で教鞭をとり  
はじめてから丁度十年になりますが、  
この偉大な三先生方に無理に当ては  
めて授業の様子を紹介してみます。

内容はともかくとして、学生が昆  
布のようになって寝てしまうのを防  
ぐなどのために板書を目一杯して学  
生にノートをとらせたり、また、発  
達心理学で青年期を説明するときは、  
まさに「あなたたちの時期はね」と  
学生の顔をしっかりと見ながら妙に  
熱っぽく話していたり、質量保存の  
法則を説明するときははでさるだけ切  
れ味良くという思いで講義をしてい  
たりと、真似るような錯覚めいた気  
持ちで教えている自分に気がつきま  
した。教員の立場になつてはじめて  
先生方のご苦労の一端を垣間見るこ  
とができ貴重な経験をさせていただ  
いております。この懐かしい教育心  
理の今は亡き三先生方のずっしりと  
した重厚感そして厳しさの中に暖か  
みが感じられる学生への教授と指導

は大変尊いもので、良き先生方に恵  
まれたことを感謝しております。

大学の教鞭をとる立場になつて、  
自分の力量、今流の個々の学生への  
対応、大学という組織の中での役割  
など実に多岐にわたる課題が常にあ  
り、思いの外大変忙しく、日々悪戦  
苦闘しているというのが現状です。

「私の近況—docendo discimus」  
木戸 裕（教育哲学 74年卒）

私は平成二十二年三月に、三十三  
年間勤務した国立国会図書館を退職  
しました。退職後は、上智大学など  
で「国際教育学」「外国教育史」等  
の教育学関係の科目、東洋大学など  
で「情報メディアの活用」「情報サー  
ビス」といった図書館司書・司書教  
諭資格取得のための科目、高崎経済  
大学で「ドイツ語」「日本語リテラ  
シー」の非常勤講師をさせていただ  
き現在に至っています。

図書館関係の科目については、普  
通に思われるのですが、そのほかの  
科目では、何で元図書館員がそんな  
講義をしているのか不思議がられる  
ことがあります。

私は国会図書館に職中、その多く  
の期間を調査及び立法考査局という  
国会議員の立法活動を補佐する部署  
で過ごしました。同局の職務は大き  
く二つあり、ひとつは国会議員から

の質問に答える「依頼調査」、もうひとつは質問を予測して行う「予測調査」の仕事です。

私はそのなかで、とくに文教問題に係わる立法調査業務に従事してまいりました。「依頼調査」の仕事は、議員からの依頼に応じて、資料等を用意する、報告書を作成する、必要に応じ直接説明するといったことなどが挙げられます。「予測調査」では、外国の教育事情、教育制度に関する論文等の執筆、外国の法令の翻訳などに取り組んできました。

また並行して、国立教育政策研究所、大学入試センター等の各種研究プロジェクトなどにも参加してきました。

在学中学びました、そうした知識や経験をベースに、現在教壇に立たせていただいている次第です。講義の準備をしながら、学生時代の恩師が言っておられた「docendo discimus」（教えることによって、私たちは学ぶ）というラテン語の格言をモットーに、日々学ぶことの楽しさを味わっています。

### 叩き込まれた「野鴨の精神」

堀籠 英夫（教育社会 61年生）

社会人になってから、三つの精神を徹底的に叩き込まれ、これが今日まで生きて来られた精神的支えに

なっている。

一つは「THINK」と言う言葉であった。職場の目に付くところには、「THINK」の文字がいたるところにあり、まず上司の部屋に行くと「THINK」の金文字が埋め込まれた三角錐のプレートが机上に置かれ、それを見ると準備不足で報告に言った場合等は立ちすくんでしまったことを思い出す。後に管理職になり報告を受ける立場になった時には、自分への戒めを含め個室で一人の時にはTHINKプレートで自分の方に向け、自問したものです。パスカルの言葉を思い出す。

二つ目は「教育に飽和点はない」と言う言葉が全ての教材に印刷されていたことだった。一年半の社内研修では大学四年分以上（あまり学問に熱心ではなかった小生にとつて）の専門書を学習させられました（それは定年退職まで続きました）。

豊かな人生を送るには広範囲に及ぶ生涯学習の重要性を学んだ。

三つ目は本題の「野鴨の精神」です。大学時代卒業の単位を得るために受講した哲学の時間に実存主義哲学の話聞く機会がありました。キルケゴールやヤスパース、ハイデッカー……とあまり熱心に聞いていませんでしたが、社会人になってキルケ

ゴールの実存主義の考えの根本になった「野鴨」の精神を叩き込まれたのには驚きを感じました。

そのあらまは以下の通りです。

「デンマークのジールランドと言うところに湖があり、その湖に毎年野生の鴨たちが飛来してきていました。これを見た慈悲深い老人が餌を与えるようになりまし。そうすると鴨たちは餌を求めて新しい地へ飛び立つ必要がなくなり、そこに住みつくようになりました。やがて野鴨たちは、力強く飛び立つことを忘れ、もはや元の野生に戻ることは出来なくなりまし。野生の力強さを失った野鴨たちに待っていた運命は、自然災害が襲い激流がこの湖に流れ込んできた時に、丘に這い上がる事や飛び立つこともできず悲しい運命に終わったと言う話です」。

この野生の野鴨の話は、強烈な哲学となり、キルケゴールの実存主義哲学はこの逸話から引き出されたと聞きました（哲学専攻の諸兄から訂正があればどうぞ）。この野生の野鴨の力強く飛び立つことの貴さを叩き込まれ、未だに生きる精神的支えになっている。喜寿を迎えたこの歳になって、感ずるのは社会人になってから経験し学んだこの三つの精神的「THINK」「教育に飽和点はない」「野

鴨の精神」がこれまで自分を支えてくれたものと思っている。世の中には解決すべきいろんな問題が山積しているが、自ら解決に動きださない限り前には進まないように思う。萩友会の記念講演で福島教授が示された衰退しない地域（成功してる地域）の事例を見ても、この野鴨の精神に通じるものがあるように思えた。

戦後間もなく七十年になろうとしているがこの間、国民は英知を絞り自ら行動を起こし、諸問題を解決し今日の繁栄を勝ち取ったが、安穏とした生活に慣れると次第に平和ボケ（？）状態に陥り、覇気がなくなり自ら問題解決する意欲を失いつつあるような気がしてならない。ヘーゲルの「ミネルバのフクロウが追りくる黄昏に飛び立つ」を思い出す。

旧首相官邸の屋上に四羽のフクロウの彫刻があつたが改装時に撤去されたと聞く、人や時代に陰りが生じる、行きづまりが感じられる。このような時こそ知の力が必要とされる。そして知が混迷を打ち破る。いまだ本は混迷の中に進みつつあるような気がしてならない。フクロウ（知恵の象徴）の彫刻を撤去しないで保存してほしかったと願うのは私だけではないのでなかろうか？官邸こそ最も必要なのではあるまいか。



# きょうかん 第12期 (平成24年11月～平成26年10月) 維持会費協力のみなさま

納入ありがとうございました。(165名、敬称略、専攻別・卒業年度順)

- 【教育哲学 13名】
  - 大曾根良衛 上條信二
  - 沼田裕之 若林 滋
  - 橋本紀子 伊藤忠篤
  - 笹川智恵子 山田守男
  - 木戸 裕 小林昭文
  - 伊藤久徳 西山 拓
  - 水越丈晴 西山 拓
  - 小林幸一郎 家根敏明
  - 石岡久美 野原忠博
  - 長谷川嵩 菊谷邦雄
  - 石塚米子 堀籠英夫
  - 槇 正幸 杉浦洋一
  - 西村孝雄 吾田壹明
  - 浅野 勉 池田 公
  - 佐藤門哉 鈴木俊之
  - 中林勝男 萬矢和恵
  - 阿部 実 手塚 紘
  - 星 永揚 佐久間孝正
  - 巽駒太郎 小玉幸彦
  - 菅野 正 野島節子
  - 北館博人 市塚 守
  - 佐々木昭美 佐々木博
  - 津吹 茂 今野俊治
  - 井腰伯子 上羅 廣
  - 半田扶美子 岩田 真
  - 小泉信三 佐々木浩
  - 沼尾立子 田崎正紀
  - 飯野健児 松本英子
  - 歌代真人 寺島ひろ子
- 【教育行政 35名】
  - 小野充宏 大野正利
  - 鈴木英一 梶塚典子
  - 稲葉美沙子
  - 赤間啓介 加藤正巳
  - 荒木 廣 木村正次
  - 須貝幸雄 清水俊雄
  - 秋田義明 川島春夫
  - 佐倉三雄 齊藤哲至
  - 新井雄啓 佐藤 全
  - 稲葉雅彦 高橋靖直
  - 望月 久 阿部 孝
  - 熊谷 晃 田中博康
  - 芦澤 薫 菅原英行
  - 福田昭夫 錢谷真美
  - 廣池幹堂 浅野良一
  - 猪瀬幸夫 高橋寛人
  - 小澤恵子 森 賢一
  - 寺内 誠 中島洋明
  - 田中愛智朗 長沼真吾
  - 小川慎介 小林順子
  - 沓澤 亘
  - 江川 亮 磯部裕子
  - 奥泉英夫 斎藤忠志
  - 位田尚隆 黒住ひろ子
  - 吉岡 忍 木村 祐
  - 菅田美紀子 舛岡道子
  - 小熊順子 寺嶋洋平
  - 中村美恵子 吉村葉子
  - 寺島ひろ子 野露るみ子
- 【教育心理 24名】
  - 小滝 威 田口有里
  - 吉田恵子 馬場章信
  - 野村正宣 黒須俊夫
  - 鷲尾純一 吉川智子
  - 小原弘三 高橋 哲
  - 鈴木貞夫 遠藤道雄
  - 高橋敏行 田沢良介
  - 大沼直紀 高橋良彰
  - 員見芳房 山森伸子
  - 細淵富夫 北島善夫
  - 板井啓修 及川 元
  - 堀内純子 梶原 葉
  - 菊地 明 篠 博久
  - 高橋滙子 中井ちとせ
  - 渡辺健郎 大金武文
  - 柴田洋子 猪又和子
  - 加藤芳喜子 川野恵子
  - 高橋睦人 村井綾子
  - 永井勝利 石崎謙二
  - 金野久子 渡辺成男
  - 後藤 光 丹野光穂
  - 渡辺登美子 今野正保
  - 鈴木保一 相馬敬司
  - 吾妻順子 横館厚太
  - 石森ミネ子 細谷靖男
  - 鬼 宗久 星 重昭
- 【心身障害 12名】
  - 鈴木貞夫氏(心障'60)
  - 平成25年4月29日に「瑞宝双光章」を受章されました。おめでとございます。
- 【図書寄贈】
  - 西山 拓氏(哲学'96)
  - 平成25年11月13日に著書「市民大学と地域学―川崎学のとりくみを中心に」(シーエーピー出版)を寄贈いただきました。有難うございます。
- 【学校教育 32名】
  - 板井啓修 及川 元
  - 堀内純子 梶原 葉
  - 菊地 明 篠 博久
  - 高橋滙子 中井ちとせ
  - 渡辺健郎 大金武文
  - 柴田洋子 猪又和子
  - 加藤芳喜子 川野恵子
  - 高橋睦人 村井綾子
  - 永井勝利 石崎謙二
  - 金野久子 渡辺成男
  - 後藤 光 丹野光穂
  - 渡辺登美子 今野正保
  - 鈴木保一 相馬敬司
  - 吾妻順子 横館厚太
  - 石森ミネ子 細谷靖男
  - 鬼 宗久 星 重昭

## 第13期(平成26年11月～平成28年10月) 維持会費納入のお願い

東北大学教育学部関東地区同窓会は第12期を終了し、第13期活動に入ります。同窓会活動は、会員の皆様からご協力いただいております**維持会費(2年間で3,000円)**により支えられております。第13期もご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

つきましては、同封いたしました「郵便振込票」で平成26年12月末までに、維持会費の納入をお願い申し上げます。

東北大学教育学部関東地区同窓会  
会長 星 永揚

●連絡先 事務局 小林 昭文  
TEL・FAX 042-325-2819  
メール aug021zelkoba7@ezweb.ne.jp

## 事務局から

### 【叙勲】

鈴木貞夫氏(心障'60)  
平成25年4月29日に「瑞宝双光章」を受章されました。おめでとございます。

### 【図書寄贈】

西山 拓氏(哲学'96)  
平成25年11月13日に著書「市民大学と地域学―川崎学のとりくみを中心に」(シーエーピー出版)を寄贈いただきました。有難うございます。

## 編集後記

▼学士会館の東北大学連絡事務所、定例役員会で堀籠副会長、東

北大は世界を目指しているようだが、教育学部の活躍は?」同窓生たちの熱い思いで今回の記念講演実現。▼今号、本部と仙台支部の近況、学部小史、関東萩友会報告と躍動する母校の様子。「同窓生の声」に教育に関わる様々な実践。学びのパラダイム転換期といわれる今、時宜を得た「きょうかん12号」珠寶の数々、秋の夜長には是非ご一読を。11月の総会、皆様お誘い合わせてのご参加を。▼私も4月から43年振りに母校でまた勉強始めました。竜宮城に二度来てしまった浦島太郎(?)のような心境です。川内の不易流行に身を置き生涯学習を楽しんでいます。(小林)